



センター駐車場

2025年度を迎えるにあたって～支え合いと小さな挑戦～



外来・通所チーム
フロアー マネジャー
尾下 真志

春の陽気に包まれ、花々が咲き誇る季節となりました。寒さの厳しかった冬が過ぎ、心も体も少し軽やかになるこの時期、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

新年度の始まりは、気持ちを新たに、何かを始めるきっかけにもなる大切なタイミングです。

「2025年問題」と地域包括ケアシステム

リハビリセンターだより37号で取り上げましたが、2025年は「団塊の世代」と呼ばれる方々がすべて75歳以上となる節目の年であり、日本は本格的な超高齢社会に突入します。これを「2025年問題」と呼び、医療・介護・福祉の現場ではその状況に対応すべく地域包括ケアシステムと呼ばれる体制作りをしてきました。

リハビリテーションの専門職に求められる役割

こうした社会の変化の中で、私たちリハビリテーションの専門職に求められる役割も大きく変化しています。従来のような身体機能の改善や回復だけでなく、「住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けること」を支える視点がより重要になっています。たとえば、外出しやすい環境づくり、安心して在宅で過ごせるような福祉用具の提案、ご本人の思いを尊重した目標設定など、生活全体に関わる支援が求められています。

「支える側」としての役割にも期待したい

一方で、私たちは高齢者の方々を「支えられる存在」としてのみ捉えるのではなく、「支える側」としての役割にも期待したいと考えています。長年積み重ねた経験や知識、そこで形成された人柄は大きな財産です。家族との団らんや近所の方との交流、地域の行事への参加など、どんな小さなことでも、まわりの人を元気づけ、地域に明るさをもたらす力になります。

春は新たな一歩を踏み出すのに適した季節

たとえば、近所を少しだけ散歩してみる。長らく会っていなかった友人に電話してみる。昔の趣味を再開してみる。そんな小さな挑戦が、日々の生活に新しい風を吹き込んでくれます。

リハビリセンターでは、介護予防、外来・通所・訪問リハビリ、訪問看護を通して、利用者さまのその一歩を支えるお手伝いをさせていただいております。

これからの時代、地域全体で支え合う仕組みがますます大切になっていきます。その中で、一人ひとりが自分の持つ力を活かし、生き生きと暮らしていけるよう、私たちも一緒に歩んでいきます。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



植木鉢の図

輝生会の基本理念 ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「情報」の開示
■ 「主体性・自己決定権」の尊重 ■ 「ノーマライゼーション」の実現

装具とは

病気や怪我によって生じる、身体の機能低下の防止や回復、症状の軽減、運動機能の代償を目的に装着する器具のことです。手や腕に装着する装具を上肢装具、胸や腰、首に装着するものを体幹装具、脚に装着するものを下肢装具と言います、今回はその中でも、当センターでも利用者が多い、長下肢装具と短下肢装具について紹介していきます。



■長下肢装具

大腿部から足部までの装具で、膝関節と足関節（足首）の動作を制御する目的で使用します。

基本的には支柱が金属で出来たものが一般的ですが、プラスチックを使用しているハイブリットタイプのものもあります。



■短下肢装具

膝下から足部までの装具で、足関節（足首）の動作を制御する目的で使用します。長下肢装具と比べて種類が豊富です。金属・革製やプラスチック製などの素材、長さ、足関節の継手（ボルト、バネ・ゴム、油圧式など）の組み合わせにより各々メリットやデメリットがあります。その為、使用者の麻痺や筋力低下の程度、立位・歩行状態にあわせ、選択しています。



オルトトップ型



シューホン型



金属支柱付き短下肢装具

■装具使用の際に注意すること

- ・装着手順：踵が浮いてしまったり、つま先がでないよう順番を守って装着することが大切です。足首→足尖→下腿の順にベルトを締めましょう。
- ・皮膚トラブル：浮腫みや筋肉の肥大・萎縮、筋緊張の増加、装具の擦れなどが原因で発赤や傷などのトラブルに繋がるため注意が必要です。
- ・装具の耐用年数：プラスチック型短下肢装具は「1.5年」、金属支柱付き短下肢装具「3年」が目安となっています。あくまで、その補装具が修理不能となるまでの予想年数であるため、必要に応じて作製した装具業者に相談して下さい。

ベルトを締める順番



外来・通所・訪問リハビリを希望される方は、

船橋市リハビリセンター（047-468-2001）までご相談ください。



春の訪れとともに、新しい生活や環境の変化に直面する季節がやってきました。暖かな日差しが心地よい反面、気温の変動や生活環境により、ストレスを感じる方も多いのではないのでしょうか。今回は、春に多くの方が感じやすいストレスとその対策についてお伝えいたします。



ストレスとは？



ストレスとは、生活の中で感じる負担やプレッシャーの事です。たとえば、温度差が大きい季節の変わり目や人間関係の変化などがストレスの原因になります。少しのストレスなら私たちが元気にしてくれることもあります。その為、うまくコントロールしていくことが大切です。

ストレス解消法

1 深呼吸をする	ゆっくり深呼吸をすると、リラックスできます。静かな場所で深呼吸を数回繰り返すだけで、心が落ち着きます。
2 散歩をする	外に出て少し歩くだけで、気分がスッキリします。春の温かい風を感じながら、心地よい時間を過ごしましょう。お近くの公園を散歩してみたり、庭で花や木を眺めるだけでも心が落ち着きます。
3 好きな音楽を聴く	自分が好きな曲を聴くことで、気分がリフレッシュされます。穏やかな音楽やリラックスできるメロディーを聴くと、ストレスが軽くなります。
4 お茶を飲む	カモミールティーや緑茶などはリラックス効果があります。お茶をゆっくり味わうことで心も落ち着きます。
5 手を使って作業する	編み物や絵を描いたり、ガーデニングをしたりすることで、集中力が高まり、自然と心が落ち着きます。
6 おしゃべりする	家族や友達と話すだけで、気持ちが楽になります。何でもない日常の話や、悩み事を打ち明けることで心が軽くなります。
7 軽い体操をする	ストレッチや軽い体操をすることで、体の緊張をほぐし、心もリフレッシュできます。朝起きたときや寝る前に少し体を伸ばしてみましょう。
8 笑う	笑うことは、ストレスを解消する最も簡単で効果的な方法のひとつです。楽しい映画をみたり話を聞いて笑うことで、心が軽くなり、ストレスが解消されます。
9 ゆっくりお風呂に入る	お風呂にゆっくり入ることで、体の疲れが取れ、心もリラックスできます。アロマオイルを使ったり、温かいお湯でからだを温めるだけでも、リフレッシュできます。



ストレス自体は悪いものではなく、上手に管理すれば充実した生活の力になります。自分のペースで生活し、健康的な習慣を取り入れ、必要に応じてサポートを受けることが大切です。春のストレスに上手に対処し、心穏やかな日々を送る為に、ぜひこれらの対策を実践してみてください。健やかな春を迎えられることを心より願っています。

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長 亀山 笑美 または ソーシャルワーカーまでお気軽にお電話（047-773-0319）ください。

地域リハビリ 拠点事業

～活動報告～

「地域リハビリテーション拠点事業」では、関係機関と協力し様々な活動を行っています。

第29回 船橋市地域リハビリテーション研究大会 2025年3月12日(水) WEB 参加者 110名

「地域リハ推進委員会」では、3班に分かれて活動をしてきました。1班は、行動の指針となる「地域リハの心得」(本人・家族編)を、2班は障害児者を取り巻く現状と課題を、3班は口腔・栄養・リハ三位一体の取り組みについてそれぞれ検討してきました。本研究大会では、各班での取り組みについての報告を行いました。

みんなで咲かせよう地域包括ケア班

『船橋市地域リハビリテーションの心得』(本人・家族編)作成について

そうだ!!
相田みつお風の言葉にしよう!



フェルマータ船橋
押尾 雅彦 氏



みずたま介護ステーション
船橋 佐藤 昭子 氏

昨年度、地域包括ケアを推進するための、支援者側の指針となる「心得」を作成し、報告しました。

今年度は、本人・家族側が持っておきたい「心得」を作成しましたので、押尾氏から、地域包括ケアという言葉の整理と本人・家族編を作ることになった経緯をお話いただき、佐藤氏から、実際の「心得」をご紹介いただきました。

『地域リハビリテーションの心得』作成



医療・看護
介護・リハビリテーション
保健・福祉で働く私たちの心得
令和5年度作成!

本人の心得 / 家族の心得
令和6年度作成



ご本人・ご家族向け 船橋市地域リハビリテーションの心得

心得その1: 「本人の選択」について

どう生きるかは、自分次第なんだよな

- 本人も家族も自分の人生、自分の生き方は自分で決めて自分を応援したいですね。
- 自分らしい人生って何だろう? 人生を送るための暮らし方ってどんなことだろう? と今一度想像し、そんな暮らしができるよう、今後の目標をできるだけ具体的に決めてみましょう。

心得その2: 「本人・家族の心構え」について

より良く生きるなら、 お互い楽しみがある生活がしたいんだな

- 本人も家族もお互いの思いや困りごとを伝えあい共有できると良いですね。
- お互いに行えること、できないことを共有して生活を考えていくことが大切です。ご本人は自身の思いを家族に伝えたり、ご家族も家族の思いや困りごとをご本人に伝え、お互いが思う生活を実現するために、どういう生活をしていくか一緒に考えておくことが大切です。

心得その3: 「健康」について

からだは正直、だから向き合っていく必要があるんだね

- 心身の健康を保つため日頃から、バランスの良い栄養、口腔ケア、運動に取り組みませんか。
- バランスの良い栄養をとること、お口の健康を保つため口腔ケアを行うこと、速達に運動習慣を身につけること、生活リズムを保ち適度な睡眠をとること、リラックスできる時間をつくることを意識するとともに定期的に受診して健康への意識を高めましょう。

心得その4: 「活動・参加」について

住んでいる街を見渡すと、いろんなものがあるのだなあ

- 趣味を活かして生活をしたり、ご近所の通いの場やサークルを見つけたり、楽しみを見つけに行くことも豊かな生活につながりますよ。
- 散歩へ出かけたときに、お花を見つけたり、おいしいお店を見つけたり、自分なりの楽しみを発見しながら、友人との交流や地域の活動に参加して、楽しみになる時間をつくることで生活にメリハリをつけていくことも大切です。ご自宅で過ごす際もメリハリをつけて過ごしましょう。

心得その5: 「環境・制度・地域資源」について

制度って、使っていないんだ よくよく聞くと役立つことがあるもんだ

- 困りごとを周りの力を借りて解決していくことも考えてみませんか。
- 社会保障制度に関心をもって、自分が利用できる社会資源や福祉用具を把握することも大切です。地域の集まりの場や使えるサービスは有効活用して、自分らしい人生を実現していきましょう。

地域リハ推進委員会

障害福祉を知り船橋を明るくする班

介護分野と障害分野をつなぐ ～障害福祉の立場からみた連携の可能性～



基幹相談センター
ふらっと船橋
清水 博和 氏

清水氏からは、連携の可能性を考えるに当たり、障がい福祉制度の概要をサービスの種類、利用のための申請方法、障がい分野における「相談」の種類について等ご説明いただきました。また、事例を通して、困難さを持ちながら生きている方が、高齢になり、介護分野との連携が必要になった時に、年齢で支援するしないを考えるのではなく、世帯として支援することの重要性をお話いただきました。

障害者総合支援法に基づく 障害福祉サービス体系 (自立支援給付と地域生活支援事業)

自立支援給付	介護給付	ホームヘルプ、重度訪問介護、行動援護、重度障害者等包括支援、同行援護 短期入所、療養介護、生活介護、施設入所支援
	訓練等給付	自立訓練、就労移行支援、就労継続支援(A型・B型)、グループホーム
	自立支援医療	更生医療・精神通院医療※・育成医療(児童福祉法)
	補装具	義歯、装具、車いす 等
	※地域生活支援事業(市町村事業)	相談支援、移動支援、成年後見制度利用支援、地域活動支援センター、意思疎通支援 その他

口腔・栄養・リハビリのトリニティ班

管理栄養士・歯科医師・リハ専門職が力を合わせると何が生まれるのか！？

【管理栄養士の役割】



船橋市栄養士会 加藤
特別養護老人ホーム
ローゼンヴィラ藤原
加藤 寿美 氏



栄養士は、その人にあつたお食
事の形態の指示を受けて、食べ
やすいお食事を提案し、低栄養
の改善のお手伝いができます。

栄養所要量 献立を 調理も
を計算 作成 できる

食事のことで困ったら栄養士に相談してください

食事がとれなくなった方には、いつ頃から食べられなくなったか、どんな時に食欲が低下するかなど、管理栄養士はまず質問し、原因を予測していきます。食欲不振の主な原因は、薬剤性、身体的、社会面、心理面、認知面の5つ

のカテゴリーに分けられ、重複することもあります。食事がとれなくなると、低栄養になります。低栄養の状態が続くと、フレイルサイクルに陥り、要介護状態になる可能性が高まります。飲み込む力に適した食事でないとお食べられません。管理栄養士は、その人にあつた食事の形態の指示を受け、食べやすい食事を提案し、低栄養の改善のお手伝いができます。食事のことで困ったら、「栄養士に相談したい」と伝えてみてください。

【歯科医師の役割】



船橋市かざぐるま
休日急患・特殊歯科診療所
田代 晴基 氏

咀嚼力とは

咬合支持（噛み合わせ）
×
口の力強さ、巧みな動き（筋力、運動）
×
認知機能

日本歯学会 Ann Jpn Prosthodont Soc 8 : 126-131, 2016
運動障害性咀嚼を伴う高齢者の食形態の決定より抜粋、一部改変

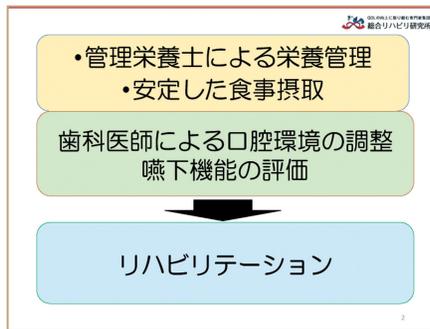
歯科医師はミールラウンドを行います。ミールラウンドでは、対象者の生活の場に行き、食事場面で、外部観察した際に、問題が食べ方にあるのか、環境にあるのか、嚥下機能にあるのか特別な機器を用いずに評価を行います。一見噛んでいるように見える方も、舌が上手く動かせず

にいつまでも口に食べ物が残っている方もいます。こういう方には、お口に入った時に既にまとまりの良い食事を提案します。嚥下内視鏡検査（VE）で確認すると、食べ物が気管に入ってしまう誤嚥が起きていることもあります。咀嚼力には認知機能が重要です。

【リハ専門職の役割】



船橋市訪問リハビリテーション連
リボン訪問看護
ステーション船橋
言語聴覚士 朝川 洋子 氏



摂食嚥下には、食べ物を認知し口まで運ぶ「先行期」、咀嚼し食塊を形成する「準備期」、口から咽頭に送り込む「口腔期」、咽頭から食道に送り込む「咽頭期」、食道から胃に送り込む「食道期」の五つに分けられます。問題がどの時期にあるのかによって、行うリハビリテーションも違います。また、正しい姿勢の保持や適切な食具の選定に

よっても嚥下機能に影響がある為、理学療法、作業療法も重要なリハビリテーションと言えます。リハ専門職として、その方の変化を察知し、歯科医師や管理栄養士と共有することで、効果的な援助が行えると考えます。

トリニティとは？

口腔×栄養
口腔の機能を改善することで食事摂取量が増加し、栄養状態が改善する。

栄養×リハビリテーション
適切な栄養管理がリハビリテーションの効果を最大化し、回復を早める。

リハビリテーション×口腔
口腔機能や嚥下機能を改善することで、安全な食事摂取を促進する。

【まとめ】口腔・栄養・リハビリの3者が連携することで、食事摂取量の増加、体重の改善、栄養状態の向上、誤嚥性肺炎の予防、リハビリテーション効果の向上が期待されます。

これにより、その方のQOL（生活の質）を向上させ、健康維持に重要な役割を果たすことができます。

地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。

このQRコードで直接アクセスできます。

地域リハビリ拠点事業
ホームページQR



活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下がみられる方を対象に、実施している事業が「リハビリ事業」です。



「リハビリ事業」では、パワーリハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリを行っています。利用料金はそれぞれ 350 円です。飯山満駅・薬園台駅・東船橋駅から巡回バスも運行しています。

パーキンソン病とパワーリハビリテーション

パーキンソン病とは

パーキンソン病とは中脳の黒質細胞が変性することにより、ドパミン産生が低下し、スムーズに体を動かせなくなる神経変性疾患です。

【四大症状】

- ① 安静時振戦：じっとしているときに手足の振るえが出現
- ② 無動：動作がゆっくりになる、動けない、字がだんだん小さくなる（動作緩慢）、表情が乏しくなる（仮面様顔貌）
- ③ 姿勢反射障害：前傾姿勢となり、転びやすくなる
- ④ 筋強剛：筋肉がこわばり、関節の歯車様または鉛管様の抵抗がみられる

その他にも・・・

歩行障害：すくみ足、小刻み歩行、突進様歩行などがみられる

自律神経障害：便秘、排尿障害、起立性低血圧、脂漏性皮膚などがみられる



パワーリハビリテーションで期待できること

【パワーリハビリテーションとは・・・】

通常のマシントレーニングとは異なり、筋力強化を目的としたプログラムではありません！

パワーリハビリテーションは、マシントレーニングを低負荷（2.5kg～）で行い、全身各部の使っていない筋肉を動かします。筋活動のパターンの回復、神経筋協調性の回復、筋力増強、総合的動作力の回復などの効果があります。高齢者の動作性低下は単に筋力低下によるものではなく、神経・筋のシステムに問題があると考えられています。

高齢者の姿勢の特徴から活動していない筋群があり、その筋群に対してパワーリハビリテーションのマシントレーニングを実施することにより、神経・筋システムの再活動化が期待でき、体力・活動性の向上につながります。運動による化学伝達物質である「アセチルコリン・カテコラミン等」の放出量が増加することでパーキンソン病に対する効果が期待できると考えられます。「すたすたと歩けるようになった」「外出するようになった」といった心理的活動性の改善が行動変容をもたらすリハビリテーションです。

若い頃のいわゆる筋トレとは違います！

低負荷でゆっくり行うスロートレーニングが有効です！



レッグプレス
(大腿部・殿筋)



レッグエクステンション
(大腿四頭筋)



トーソフレクション
(腹筋)



ローイング
(背筋)

<利用の手続き>

パワーリハビリ教室：年に4回、3カ月おきに船橋市の広報にて公募（2/15・5/15・8/15・11/15の号にて掲載）

プールリハビリ：随時受け付けています。

リハビリ事業専用回線：047-400-6227（平日 9:00～12:00、13:00～17:00）

委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み 「接遇と私」

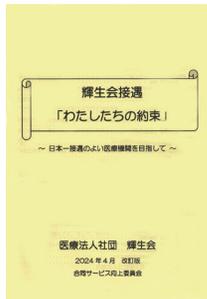
輝生会では「よりよい接遇をめざして」を、合い言葉にして、接遇ルールブック『私たちの約束』をもとに日々の業務に取り組んでいます。

当センターでは、2025年度接遇目標として、

「朝一番の挨拶は大きな声で、
自分から！」

をあげています。

12月には、優れた実践を日ごから心掛けているスタッフを、接遇に優れたスタッフとして表彰しています。



今回は、理学療法士の鳴釜航汰さんの私がいつも心がけている「挨拶をするときに利用者さんの名前を呼ぶこと」を紹介します。



私は「挨拶をするときに利用者さんの名前(苗字)を呼ぶ」ことを心がけています。輝生会の理念としての「人間の尊厳の保持」を実践する1つの行動として、名前をお呼びすることで個人を敬う、信頼を築くなどができたら良いと思い実践しています。当たり前のことだとは思いますが、当たり前を忘れずに皆さんと接することができるようにがんばります。

地域連携推進委員会

中学生 職場体験

2024年1月23～24日

場所：船橋市リハビリセンター

1月23日・24日の2日間、若松中学校の生徒3名が船橋市リハビリセンターで職場体験を行いました。施設内の見学や理学療法士や作業療法士、言語聴覚士といったリハビリ専門職の仕事の間近で見てもらい、利用者の方々とコミュニケーションをとることなど、仕事への理解を深める体験となった事とされます。

生徒さんからは「リハビリに対し懸命な姿が強く印象に残った」などの感想がよせられました。

船橋市リハビリセンターでは、今後も地域の中学生に向けた職場体験の機会を提供し、リハビリへの関心を高める取り組みを続けてまいります。



紙面課題に取り組んでいる利用者さんの姿を見学中



リハビリ事業について説明を受けている所

スタッフ紹介

新入・異動スタッフに質問 ①センターの魅力 ②趣味など ③今後の抱負

PT：理学療法士 OT：作業療法士 ST：言語聴覚士



(林 恵里 OT)

①クリニックとして外来通所訪問の機能があり、地域での連携がしやすいこと。
②読書(漫画、小説、など)、おいしいものを食べること。
③より幅広い知識を持って、多くの利用者さんとコミュニケーションをとり、一スタッフとして少しでもお力になればと思います。



(吉岡 理枝子 ST)

①いろいろな職種のスタッフが揃っているため他職種の視点からリハビリについてアドバイスができること。
②旅先でその土地ならではの食べ物を食べるのが好き。
③利用者さんとよく話し合い納得してもらえるようなリハビリを提案していけるよう励んで参ります。



(竹森 美桜 PT)

①外来通所訪問と利用者さんのお体の状況と課題に応じて柔軟に対応できること。
②アイドルやバンドのライブに行くこと。旅行がてら各地の美味しいご飯を食べたりするのも楽しみの1つです。
③利用者さんの困り事にいち早く気付けるセラピストになれるよう努めます。



(岡田 朱里 PT)

①利用者さんの個性を重視し生活に密着したリハビリを提供しているところ。
②川や海などへのドライブが趣味、夏はかき氷屋さん巡りが近年のマイブームです。
③コミュニケーションを大切にして、生活の中での不安の解消や目標達成に向けた支援をしていきたいです。

地域の施設紹介

院長 紹介



宮原 重佳 先生



船橋二和病院では、急性期病棟・回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟・障害児などの分野でリハビリテーションを展開しています。患者さんが安心して地域で生活し続けられることを目指して今後も奮闘していく所存です。



船橋二和病院

〒274-0065 千葉県船橋市二和東5丁目1-1
TEL:047-448-7111



船橋二和病院は、新京成線二和向台駅から徒歩6分にあります。無差別平等を掲げ地域住民のいのちと健康を守る、24時間安心してかかることができる病院として、1981年（昭和56年）に開院し、二次医療機関・救急医療を担ってきました。病床数は271床で、31床の回復期リハビリテーション病棟や透析用の病床が50床あります。力を入れていることとして、「健康友の会」、「患者会」と協同した活動があります。また、出張健診をはじめ「保健予防活動」を地域の中で積極的にすすめています。2002年4月厚生労働省の臨床研修病院の指定、2006年病院評価機構認証を取得、2011年には無料低額診療事業を開始しました。

さらに、救急・入院を中心とする病院本体に加え、外来を担当する「船橋二和病院附属ふたわ診療所」、健診を主とする「ふれあいクリニック」、高齢者の困りごと等に対応する「二和・八木が谷地域包括支援センター」「八木が谷在宅介護支援センター」などが連携し、地域住民の健康を総合的に支えています。



病院外観

利用者さんの声から

転倒の不安なく好きな旅行ができることが希望

五十嵐 敬子 さん

私が船橋市リハビリセンターで通所リハビリを行うことになった契機は、2019年5月に腰部脊柱管狭窄症の診断で手術を受け、足の痛みは改善したのですが、右足が麻痺する後遺症が残ったことからです。足首の動きが十分でなく、スリッパがうまくはけないことや、右足での片足立ちは1秒とバランス障害がありました。私は旅行が好きでしたので、長い距離を歩けるようにと通い始めて、6年が過ぎました。多くのスタッフの皆さんの指導の下、転ぶこともなく、少しずつ長い距離が歩けるようになりました。趣味がキルト展めぐりですので、まずは津田沼から東京に出かけられたらと目標を立てました。最近では、妹とともに京都で開催されたキルト展

にまで行けるようになっていきます。

疲れると、時々足を引きずることもあり、躓くことがないように注意しています。何を目的にリハビリをしていますかと問われれば、転倒しないようにすること、日常生活で外出ができることと答えます。



退院時に比べて右足の状態は雲泥の差なので、リハビリの大切さを痛感しています。これからも今の状態を維持していきたいので、リハビリ頑張ります。そして、これからも転倒の不安なく好きな旅行ができることが残された人生の希望です。

船橋市リハビリセンター 案内図



【編集後記】今回の表紙はセンター駐車場の桜です。巻頭言は、尾下さんによる「支えあいと小さな挑戦」。クリニック事業は下肢装具を紹介、訪問看護は季節の変わり目に起こりやすいストレスとその対処法を特集。地域リハ拠点事業では研究大会での発表：本人・家族の心得の作成、フラット船橋の清水さんによる講演、今年の注目テーマ「口腔・栄養・リハのトリニティ」をまとめました。リハビリ事業はパーキンソン病患者へのパワーリハビリを取り上げ、委員会からは中学生の職場体験の様子を紹介、地域の施設紹介では船橋二和病院を、利用者の声は再び旅行を楽しむことを目標にリハビリに励む五十嵐さんを紹介。（石原茂樹）

船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059

この冊子の画像及び文章の無断引用することを禁止します。